



研究に励む福元秀さん 中央・山梨大医学部

事故で障害、山梨大・福元さん 難病研究で成果、表彰

交通事故で小脳梗塞となった山梨大医学部4年の福元秀さん(28)＝東京都出身＝は、厳しいリハビリを続けながら研究活動に励み、日本学生支援機構優秀学生顕彰の優秀賞を受賞した。国際誌に発表した論文で、難病とされる潰瘍性大腸炎などの抑制に効果がある新たな物質を明らかにしたことなどが評価された。福元さんは「障害があっても生きる希望を与えられる医師になりたい」と目を輝かせている。

「希望与える医師に」

中学時代から、障害や貧困などで恵まれない子どもの夢を支援したい、と思うようになった。当初は会社を立ち上げて支援することを考えていたが、「医師として直接人々に関わることをしたい」と立教大理学部を退学し、6年前に山梨大医学部に入學。免疫学講座に所属した。

2012年10月、昭和町内で交通事故に遭い、頭蓋骨が割れ、小脳梗塞となるなど一時意識不明の重体となった。県内外の病院でリハビリに励み、歩行訓練や発声訓練、手で物をつかむ訓練に明け暮れた。「治るか治らないかわからない状況で、治ると信じて一生懸命励んだ」

現在も両手足にしびれなどが残り、車いすで生活しているが、右手で箸を持ったり、手すりがないことも立ったりすることができるようになって回復。事故以前から取り組んでいた免疫学に関する研究を再開し、国際誌に論文を投稿した。

論文は、人体に無害な、サプリメントなどに含まれる物質(DHNA)に炎症性腸疾患の抑制効果があるという内容。炎症性腸疾患は、安倍晋三首相が持病として公表した潰瘍性大腸炎やクローン病など、いずれも腸の粘膜に慢性的な炎症や潰瘍が生じる難病だ。新たな治療薬確立につながる可能性がある論文などが評価され、昨年度の日本学生支援機構優秀学生顕彰の優秀賞を受賞した。

将来は「患者の気持ちに寄り添える医師」になることが目標。福元さんは「障害を負ったことは残念だが、けがや障害に苦しむ患者の気持ちを体験できたことは強みとなる。リハビリを続けて障害を乗り越え、一人の人間として社会に出ることで、人々の励みになれば」と話している。

〈坂本一真〉